

自宅でのがん治療期副作用管理と栄養摂取サポート事業 ～患者およびその家族の不安と負担を軽減～



採択事業者名 株式会社DeaLive

コンソーシアム構成員 四国がんセンター | ワンダーソフト株式会社 | 大手生命保険会社 | 大手製薬会社 |

県内拠点設置 あり

所在・役割 松山市大手町1-11-1
愛媛新聞・愛媛電算ビル2F(支店)

事業概要

1. 事業の狙い

日本のがん患者数は、毎年100万人規模で罹患しており、退院後自宅での生活のサポートが必要な人も増えている。本事業では、自宅における適切な症状管理および栄養管理等の介入をし、患者およびその家族の心理的負担を軽減するサービスを提供する。

2. 県内のターゲット事業者

四国がんセンターをはじめとするがん拠点病院および関連医療者

3. 紐づく課題

・自宅における日々の食事や治療の副作用に関する相談先は少なく、課題を抱える患者や家族が多く存在している。また、仕事や生活を維持しながら治療にあたる患者にとって、社会生活を維持するのが難しい状況でもある。

がん療法中の自宅での困りごと



4. 実施内容

四国がんセンターに通うがん患者に向けてサービス提供を実施。アプリでの記録とともに、栄養士からのコメントによるフィードバックやオンライン管セルングを実施。患者からは、『自分では考えつかない事などをアドバイスいただいた』『じっくりと話を聞いてもらえてよかった』など非常に高いユーザー満足度を得た。
・7～8月 四国がんセンター倫理委員会承認
・9月～ 患者アプリ利用開始(記録機能)
・12月～ オンライン面談利用(機能追加)
・1月～ 県内病院への展開協議、勉強会実施

解決策(サービス/プロダクト)

APPを用いた自宅での症状緩和・栄養管理の介入をにより、患者QOLと心理的負担を軽減する。一人ひとりの副作用症状を予測しその対策をAPP上で提示し、予測を元にした個別オンラインカウンセリングによる身体的/心理的なサポートを実施する。



デジタル活用の要素

取得データ

- ・日々の体重、体温、自覚症状、食事記録
↳統計処理による感度解析が可能
- ・栄養士カウンセリング時の面談データ
↳課題と解決策のデータベースを作成

データ活用による考察・示唆

- ・日々の記録によるQOL改善効果
- ・オンラインカウンセリングによる更なるQOL改善
- ・がん患者の困りごとおよび課題解決ニーズに関するデータベースとなり、更なる医療、サービス改善につながる活用が可能

成果と今後

成果(含む想定)

	実装前	実装後(～今年度末)	今後3年の見込み (～2028年3月末時点)
経済効果	①県内がん患者向けサポートケアのフリーミアム提供価値 ↳1人あたり***円/月 ②県内医療機関における追加の栄養士雇用費用の削減 ↳1機関あたり**万円/年 ③治療と仕事の両立による労働生産人口維持による効果 ↳1人あたり**万円/年	➢ ****万円 ①③アプリ利用者 50名 ②実装医療機関 1機関	➢ **億円(累計) ①③アプリ利用者 2,000名 ②実装医療機関 20機関
KPI進捗	【KPI ①】 ユーザー満足度 CSI=80 NPS=20	目標以上の高評価 CSI=94pt NPS=68	-
	【KPI ②】 症状対処理解度向上率 80%	理解度向上率 94%	-
	【KPI ③】 取得データ価値 **円	事業会社想定価値 **円/月・人	-
デジタル人材輩出	【アクティブ】 アプリ活用患者、栄養士 【ポテンシャル】 サービス検証検討病院 チラシ設置病院、薬局数 【関心層】 勉強会参加の人数	【アクティブ】 アプリ利用者 患者54名 栄養士15名 【ポテンシャル】 病院・薬局6箇所 ×5名 30名 【関心層】 勉強会総参加者数 50名	【アクティブ】 アプリ利用者 患者2000名 栄養士50名 【ポテンシャル】 病院・薬局20箇所 ×10名 200名 【関心層】 勉強会総参加者数 100名
	定性的/非連続な価値 (具体的な行動変容/組織変容など)		具体例 アプリ利用に伴う食事QOL向上が見られるとともに、高齢患者においてもAPP利用によるスムーズなオンライン面談で高評価を得た。
	新規実装・協業に至った事例 ※県内		
	新規実装	四国がんセンター	サービス実装・共同研究
	協業	愛媛県栄養士会	サービスへの協力
	次年実装	愛媛県立中央病院	次年度の実装・共同研究を内諾
	協議中	愛媛大学附属病院	アドバイス提供
	協業	各門前薬局	ポスター掲示・DH配布協力

その他の“for 愛媛”要素

- ・四国がんセンター患者50名に対して無料でのサービス提供を実現
- ・愛媛県栄養士会と業務委託契約を結び、所属の栄養士に対価を支払い(現地雇用)
- ・オンライン技術を用いることで、四国中央市などの遠隔からも栄養士面談を実現